

様式第2号（第9条関係）

会 議 録

会議の名称		令和4年度第4回ふじみ野市行政評価外部評価委員会			
開催日時		令和4年11月21日（月） 開会時刻 午前 9時30分 閉会時刻 午前11時45分			
開催場所		ふじみ野市役所 本庁舎3階 A301会議室			
出席した者の氏名		役職名	氏名	役職名	氏名
		委員長	木村 浩則	委員	滝嶋 康弘
		副委員長	原田 晴男	〃	濱田 明彦
		委員	岡本 雄司	市民活動推進部長	本橋 直人
		〃	川村 和也	産業振興課長	葛籠貫 智洋
		〃	嶋 健司	福祉部長	増村 規子
		〃	瀧口 詠子	高齢福祉課長	仲野 公堅
会議の議題		(1)【施策23】商工業 ー新たな産業の育成と商工業の活性化を進めますー (2)【施策24】観光 ー誰でもいつでも観光を楽しめる環境づくりを進めますー (3)【施策17】介護保険（生活支援）ー住み慣れた地域で支え合いながら暮らせるまちを目指しますー			
会議の公開又は非公開の別		公開			
会議の非公開の理由		ー			
傍聴人の数		0人			
発言の内容		別紙のとおり			
会議資料	<input type="checkbox"/> 次第 <input type="checkbox"/> 外部評価シート <input type="checkbox"/> 委員質問に対する回答票 <input type="checkbox"/> 令和4年度会議スケジュール				
事務局		総合政策部 経営戦略室			
議事の確定	確定年月日	令和5年 1月31日			
	記名押印	役職名 委員長 木村 浩則 ㊟			

別紙

会議内容

1 開会

2 【施策23】商工業 —新たな産業の育成と商工業の活性化を進めます—（市民活動推進部）

<主な質問等>

○施策の推進が計画どおりにいかなかったのは、何か変化があったからであると思う。社会的な変化等で難しいということであったが、何年か新産業団地の創出に取り組んだ中で、具体的に新たに気づいた課題や難しさがあれば聞きたい。

⇒興味を持つ企業と対面するというのが難しい一年であった。そのため、目標どおりに進展できなかった。目標設定については国道254号バイパス沿道地区の整備の遅れもある。

○遅れはあったと思うが、今後は目標どおりの数値を達成する可能性はあるのか。

⇒今年度は当初の予定どおりに進んでいるので、目標を達成できる可能性があると考えている。

○興味を持った会社があった場合にも対面での交渉が難しかったとあったが、どういう企業がきたか。国道254号バイパス沿道地区の整備プロジェクトとはどのようなものか。

⇒具体的な企業名は出せないが、既存の企業が持っている事業について、共同してやりたいと話があったが、マッチングできなかった。目標を設定した段階では産業振興課の中には企業誘致推進係というものがあって、企業誘致を進めてきた。国道254号バイパスについては、組合施行でいくという方針が決定したのでその段階で都市計画課に事務が移管となり、都市計画課で事務を進めていた。目標を設定した段階では5社程度来る想定であったが、実際には物流系の会社1社のみであった。最近はコロナの影響もあり、企業からの相談はなかったが、以前は大手の食品会社からのアプローチなどもあった。

○企業誘致活動・新産業団地の創出の関係で補足があれば。

⇒企業の流出を防ぐ取組もやっている。

○商工会と産業振興課は組織としてのつながりはあるか。

⇒産業振興課が商工会に対して補助金を出しているという関係性がある。

○商工会の会員数について、会員数を増やすための取組は商工会が行っているのか、それとも市か。

⇒会員数を増やすための取組は商工会で行っている。市の商工業を振興するにあたっては、市と商工会で連携して取り組んでいくことが必要と考えている。商工会の加入割合が減少すると、補助金の交付に支障が出るため、商工会への加入を市として推進しているわけではないものの、市と商工会で連携して

いく上で重要な数値ということで指標としている。

○ふじみ野市企業立地基本計画はなぜネットにアップされていないのか。

⇒アップロードが漏れていた。すぐにホームページにアップロードする。

○令和3年度委託事業を活かした取組の効果については。

⇒例をあげると、「高校生向け企業ガイド」を作成し、地域の学生が地元の企業に就労できるきっかけを作ったということがあった。今年度以降も委託の成果を取組に結び付けていく。

○空き店舗の発生件数は把握しているのか。それを把握しているからこそその目標値の設定か。

⇒この数値は、発生件数ではなく、過去の制度の活用実績から設定しているものである。どれくらい空き店舗が発生しているかというところも考慮しながら目標値を設定したいと考えている。

○キラリと光るものづくり企業ガイドについては、年間何社くらいがホームページに訪問しているのか。関心度合いを把握する上で重要なことと思うが。

⇒現在は把握できていない。今後はきちんと調べて活用できるよう検討していきたい。

○今年は産業まつりを開催することができた。コロナ禍の中であるが、イベントを実施して市民が外に出る場、集まる機会を作ることは大事だと思う。

⇒おおい祭り等は開催できなかったが、コロナ対策を講じながら産業まつりを開催した。多くの方の笑顔を見ることができ、開催できてよかったと考えている。今後も行事について、できる限りの対策を講じて開催する方向で検討をしていきたい。

3 【施策24】観光 —誰でもいつでも観光を楽しめる環境づくりを進めます— (市民活動推進部)

<主な質問等>

○ふじみ野ブランドの商品をSNS等で広報しては。ふじみ野市ではSNSを活用して色々と情報を発信していることもあるので是非実施してほしい。

⇒SNSについては、主に広報広聴課で所管しており、今後一層力を入れて発信していきたいと考えている。広報広聴課と協議の上、SNSで発信できるよう検討する。

○ふじみ野市は観光資源が乏しいが、新たに作り出すこともできると思う。新河岸川の旧河川を整備して、観光地化できると良いのではないか。埼玉県では旧河川の再生事業があると聞いたが。

⇒人的な制約もあり中々難しい部分もあるが、今後検討を行いたい。

○ふじみ野市のイベントでも文化系のイベントなどで動画媒体を活用している。若い世代の意見等取り入れていってほしいと考えている。

⇒他市の事例も見ながら調査研究していく。

○アートフェスタなど動画媒体を活用した情報発信を効果的に行っている事例が市内にあるので、参考にして取り入れてほしい。

⇒アートフェスタを開催した文化・スポーツ振興課は、同じ部内の課でもあるので、今後は積極的に手法を取り入れていく。

○美しくにぎわいのあるまちづくりプロジェクトに施策24観光が入っていることに違和感を感じた。そもそも施策の指標が、まつりの開催など単発のイベントに関するものとなっているため、この施策に重点を置くことで美しくにぎわいのあるまちをつくれるとは考えづらかった。例えば別の指標を設定して、新たに力を入れて行っていく取組を考えてはどうだろうか。

⇒今後調査研究していく。

○大学などでも研究を行っている事柄であるので、外部機関と連携して取り組むことを検討してほしい。

4 【施策17】介護保険（生活支援）－住み慣れた地域で支え合いながら暮らせるまちを目指します－（福祉部）

<主な質問等>

○ぴんしゃん体操は、動画配信など様々な普及活動を行っているようだが、ぴんしゃん体操活動の広がりとは。

⇒ぴんしゃん体操をやっている地域の自主グループは、コロナ禍ということもあり活動も自粛気味であり広がりあまり見られないところであるが、高齢者あんしん相談センターの助力もあり、県内でも珍しい男性だけの自主グループが立ち上がっている。昨年末に大井総合福祉センターにふじみんぴんしゃんホールを作り、ぴんしゃん体操を行う場を整備した。ここに集まって活動する人たちが新たな自主グループを立ち上げることを期待している。

○男性のみのグループの活動は珍しいということであるが、そんなに珍しいものなのか。

⇒市内に41か所程度の自主グループがあるが、基本的には女性が中心となって活動している。通常の男女比は、2：8くらいの比率である。男性のみのグループは、介護予防センターの2階にグループで活動できる場所があるため、そこで活動している。

○ふじみんぴんしゃんホールの利用者は、要介護・要支援でない方が主な利用者か。

⇒介護度などは特に関係なく、通える方が集まって活動している。

○ふじみ野市内で痛ましい事件が発生し、在宅医療や在宅介護に携わる人たちに対するハラスメントが問題となっている。市としてはどのように考えているのか。

⇒ハラスメントの実態について、アンケートや意見交換の場を設けて、実態を把握した。在宅介護の現場ではベテランの方が多く、ハラスメントも業務の中で起こるものとして受け止められてきた部分があったが、ハラスメントはあってはいけないことであるので、今後はまず市民の方々にハラスメントなどの問題について、広く知っていただくことが市としてできることと考えている。現在、そのための条例の制定を検討しているところである。

- 自分で日常生活を送ることはできるが、居場所づくりが難しい高齢者がいると思う。そのような方々がきちんと居場所をつくることができれば、今後の健康状態などに大きな影響があると思うが何か取組は。
- ⇒高齢者の方が徒歩圏内を通えるような場所づくりを進めている。通いの場の他にも、体操は無理だけど囲碁や将棋なら、というような方のニーズに応えるため、生活支援体制整備事業の第2層協議体を活用し、試験的に集会所に集まれる場を設けたりしている。
- 今お答えいただいた件は今後より高齢化が進む中で、とても重要になってくると思う。取組を推進する上で、人的・資金的なリソースは足りているのか。
- ⇒第2層協議体を活用しながら順調に活動をしているところであり、資金面などリソースが必要な場合は適宜対応をしたいと考えている。地域福祉課とも調整を行っており、多世代交流のための居場所づくりとあわせて、リソースを最大限活用しながら包括的に推進している。
- 介護予防センターで大学と連携して体験型公開講座を実施していたが、その成果と、課題などあれば聞きたい。
- ⇒大学との連携事業ということで、参加した高齢者の方々が楽しんでいるのが感じられた。学生たちにとっても、高齢者のリアルな姿を身近で見ることができる良い機会になったのではないかと思う。多世代交流の良い機会でもあるので、今後もこのような事業を実施していきたいと考えている。高齢者のデジタルデバイドの問題が言われているが、大学の力を借りて学生による高齢者向けのデジタル機器講座などできると良い。なお、現在、文京学院大学の学生によるスマホ講座の実施に向けて調整しているところである。

5 その他

6 閉会